

高品質なナスをいっぱい穫ろう

—ナス新品種「試交 17-22」の栽培技術を確立—

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場(以下「農総試」)が育成したナス新品種「試交 17-22」(2021. 11. 29 登録出願)は、単為結果性及びとげなし性を持ち、多収性であり漬物に適していることが特徴です。2023 年からは県内産地で本格的に栽培が開始され、生産者から品質の良さが評価されています。しかし、この品種は、従来から栽培されている品種「千両」と同様の栽培管理方法では、暖候期(3 月以降)に光沢のない果実「つやなし果」が発生したり、厳寒期(12 月以降)は収量が減少することが課題となっています。このため、農総試では、新品種に適した栽培技術の確立に取り組みました。

1 つやなし果発生対策

つやなし果の発生は、1 芽切り戻しによるこまめな剪定(図 1)の徹底で 77%減少させることができ、少量ずつ多頻度かん水することで、55%減らすことができます(図 2)。

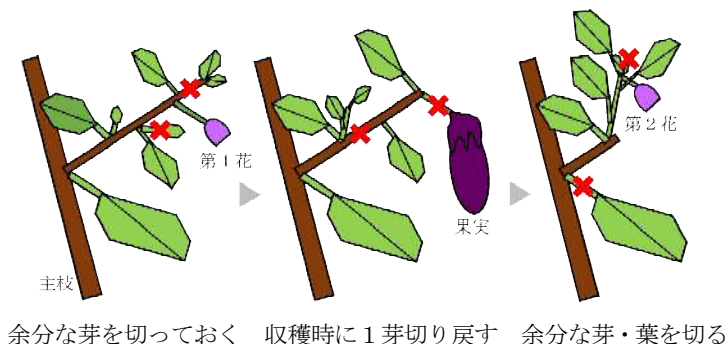


図 1 1 芽切り戻し剪定

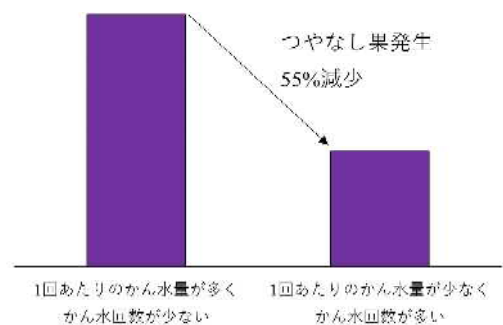


図 2 1 株当たりのつやなし果発生数の比較

2 厳寒期の収量減少対策

厳寒期の収量は、側枝基部の摘葉のタイミングを第2花が開花した後まで遅らせること(図 3)で増加します(図 4)。

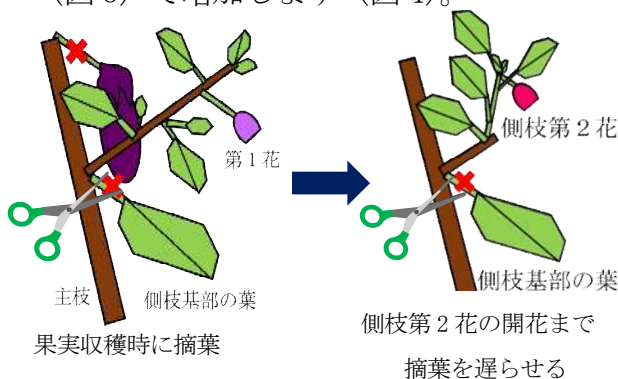


図 3 摘葉のタイミング

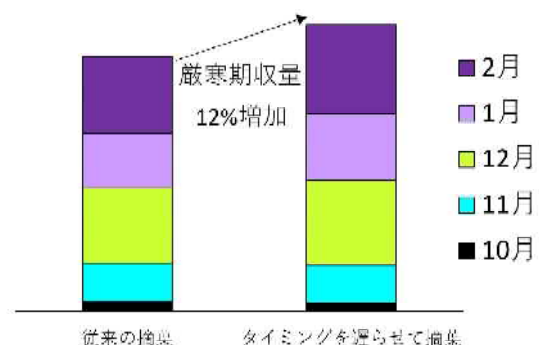


図 4 1 株当たりの収量の比較

3 「試交 17-22」の栽培指針

これらの管理方法は、『促成栽培向け 単為結果性とげなしナス「試交 17-22」の栽培指針』としてとりまとめ、農総試の Web ページで紹介しています。二次元コードよりダウンロードできますので、是非ご活用ください。



促成栽培向けナス新品種
「試交 17-22」の栽培指針